

新型コロナウイルス感染症関連の記載について

頁	記載箇所	記載内容
10	社会情勢の現状及び今後の課題 ＜新型コロナウイルス感染症の影響＞	新型コロナウイルス感染症に伴い、平常時の固定的な性別役割分担意識等を反映して、増大する家庭責任が女性に偏りがちであることをはじめ、飲食、観光、サービス業や、非正規雇用者に占める女性の割合が高いため女性がより職を失いやすいこと、DVや性被害、性暴力が増加することなど、諸課題が顕在化したことから、平常時からあらゆる分野に男女共同参画の視点が必要であることが再確認されました。また、女性の自殺が増加しており、経済生活問題やDV被害、育児の悩み、介護疲れなどがコロナ禍において深刻化した可能性が指摘されています。 一方では、テレワークや時差出勤など多様で柔軟な働き方が進むとともに、新たな暮らし方や価値観がもたらされる可能性もあり、これをさらなる男女共同参画の推進の契機とする必要があります。
12	統合による「真のワーク・ライフ・バランス」のさらなる推進	「SDGs」の国際目標の一つとして、ディーセントワークの推進が定義され、また、働き方改革関連法等により多様で柔軟な働き方ができる環境整備に向けた取組が進みつつあります。また、社会経済情勢の変容や新型コロナウイルス感染症に伴う働き方や暮らし方など社会の仕組みや価値観の変化等に対応することが求められます。このような状況の中、「真のワーク・ライフ・バランス」の更なる推進を目指すためには、性別による固定的な役割分担意識や不利益な取扱いの解消をはじめ、「男女共同参画」の視点を常に確保しながら、「仕事」、「家庭」、「地域」に関わる「男女プラン」の施策と一体的に進め、一層の効果的・効率的な取組を、市民にわかりやすく展開していくことが必要のため、「推進計画」を「男女プラン」に統合します。
13	コラム「真のワーク・ライフ・バランス」とは？	近年多発している大規模災害や新型コロナウイルス感染症の流行等において、お互いを思いやり、支え合う「人のつながり」は、大きな役割を果たすことが再認識されています。

1 5	重点分野 1 「真のワーク・ライフ・バランス」の推進	新型コロナウイルスの影響に伴い、テレワークをはじめとしたオンラインの活用により、場所の制約を受けない柔軟な働き方が普及することで、時間を有効活用でき、仕事以外の時間にゆとりができるなど、暮らし方に新たな可能性がもたらされています。
1 6	重点分野 2 DV対策の強化	また、新型コロナウイルス感染症の影響により、加害者・被害者ともに生活不安やストレス等を抱えることに加え、加害者が家にいる時間が増えたために、被害に遭っても通報や避難ができないおそれもあり、被害の増加や深刻化が懸念されています。
2 1	施策の方針 1 仕事と生活の調和と、男性の家庭生活への参画促進 【現状と課題】	また、新型コロナウイルス感染症によって社会に深刻な影響が生じている一方で、テレワークをはじめとしたオンラインの活用、時差出勤などが急速に普及しつつあり、柔軟な働き方が浸透するきっかけとなる新たな可能性ももたらされています。一方で、テレワークは、仕事とプライベートとの切り替えが難しく、働きすぎてしまうおそれや、職種や業種等によっては困難な場合もあること、留意する必要があります。
2 7	施策の方針 3 男女共同参画の視点での「市民力、地域力」の向上 【現状と課題】	東日本大震災や熊本地震等の大規模災害の発生、新型コロナウイルス感染症の拡大などをきっかけとして、家族の絆の大切さや、お互いを思いやり、支え合う地域コミュニティの重要性など、「人とのつながり」の大切さが再認識されています。
4 1	施策の方針 5 さまざまな困難を抱える方への支援 【現状と課題】	新型コロナウイルス感染症は、社会的に弱い立場にある方に、より深刻な影響をもたらしています。また、固定的な性別役割分担意識に起因する諸課題が一層顕在化しており、非常時・緊急時にも機能するセーフティネットの整備を図る必要があります。